

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A～C)に答えよ。〔解答記号 ～ 〕(配点 40)

A 次の文(1)～(5)を読み、空欄 ～ に当てはまるものを、それぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

(1) 商品の販売代金の未収額を、後日、受け取る権利をあらわす勘定科目を という。

の解答群

① 売掛金	④ 買掛金
② 未収金	③ 仮払金

(2) 百貨店などが、証書に記載された金額に相当する商品を引き渡す義務をあらわす勘定科目を という。

の解答群

① 預り金	④ 他店商品券
② 商品券	③ 前払金

(3) 取引先などとの、借用証書による金銭の貸し借りから生じる債権をあらわす勘定科目を という。

の解答群

① 貸付金	④ 借入金
② 手形貸付金	③ 手形借入金

- (4) すでに費用として支払った金額または収益として受け取った金額のうち、次期以降に属する分を当期の費用または収益から除外する修正を **工** という。

工 の解答群

- | | |
|--------|--------|
| ① 見越し | ② 繰り越し |
| ③ 繰り延べ | ④ 締め切り |

- (5) 売上債権勘定に対する貸倒引当金勘定のように、ある特定の勘定の金額を増減させる性質をもつ勘定を **オ** という。

オ の解答群

- | | |
|--------|--------|
| ① 対照勘定 | ② 統制勘定 |
| ③ 集合勘定 | ④ 評価勘定 |

簿記・会計

B 個人企業である徳島商店は、当座預金に関する取引を当座勘定のみで処理しており、取引銀行との間に¥ 500 を借越限度額とする当座借越契約を結んでいる。なお、個人企業の税金は、一つの勘定科目で処理している。また、商品売買取引の記帳には3分法を採用している。

次の「資料1」と「資料2」にもとづいて、7ページから9ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

資料1 平成×5年4月中のすべての取引

4日：和歌山商店に商品¥ 80(仕入原価¥ 60)を売り渡し、代金は掛けとした。

6日：香川商店に商品¥ 200(仕入原価¥ 150)を売り渡し、代金は「キ」で受け取った。

8日：郵便切手¥ 40 と収入印紙¥ 30 を現金で買い入れた。

13日：愛媛商店より商品¥ 200 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取りの際に生じた諸費用¥ 10 を現金で支払った。

17日：営業目的で使用するパソコン¥ 300 を買い入れ、代金のうち¥ 100 は小切手を振り出して支払い、残額は翌月に支払うことにした。

20日：固定資産税¥ 60 を現金で納付した。

25日：高知商店より商品¥ 350 の注文を受け、代金のうち¥ 100 を現金で受け取った。

28日：宮崎商店に対する買掛金のうち¥ () を小切手を振り出して支払った。

30日：岡山商店に商品¥ ()(仕入原価¥ 90)を売り渡し、代金は掛けとした。

資料2 平成×5年4月中の取引を記録した総勘定元帳(一部)

現 金		当 座				
4/1 前月繰越	220	4/8 () ()	4/1 前月繰越	200	4/17 備 品	100
6 売 上	200	13 () 10			28 買掛金	()
25 <input type="text" value="ク"/>	<input type="text" value="ク"/>	20 () 60				
売 掛 金		備 品				
4/1 前月繰越	250	4/1 前月繰越	300			
4 売 上	80	17 諸 口	300			
30 売 上	130					
買 掛 金		<input type="text" value="ク"/>				
4/28 当 座	220	4/1 前月繰越	190			
		13 仕 入 ()				
			4/25 現 金 ()			
<input type="text" value="サ"/>		売 上				
		4/17 備 品	200			
		4/4 売掛金	80			
		6 現 金	200			
		30 売掛金	130			
仕 入		<input type="text" value="セ"/>				
4/13 () <input type="text" value="シ"/>	<input type="text" value="シ"/>	4/8 現 金	40			
<input type="text" value="ソ"/>						
4/8 現 金	30					
20 現 金	60					

(注) 4月末の締切記入は省略している。

問 1 4日の取引を取引要素に分解した場合、その取引要素の結合関係として正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

<input type="text" value="カ"/> の解答群	
(借方要素)	(貸方要素)
③ 資産の増加	資産の減少
① 負債の減少	負債の増加
② 資産の増加	収益の発生
③ 負債の減少	収益の発生

簿記・会計

問 2 の 6 日の取引に関する空欄 に当てはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

<input type="text" value="キ"/> の解答群	
① 自己振り出しの小切手	① 自己振り出しの約束手形
② 先方振り出しの小切手	③ 先方振り出しの約束手形

問 3 空欄 , , ・ に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 ・, ・ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

<input type="text" value="ク"/> , <input type="text" value="サ"/> , <input type="text" value="セ"/> ・ <input type="text" value="ソ"/> の解答群	
① 仮払金	① 買掛金
② 未払金	② 前受金
③ 仮受金	③ 預り金
④ 預り金	④ 資本金
⑤ 資本金	⑤ 通信費
⑥ 通信費	⑥ 租税公課
⑦ 租税公課	⑦ 消耗品費
⑧ 消耗品費	⑧ 仮払金
⑨ 仮受金	⑨ 買掛金

問 4 の 28 日の取引を、当座勘定を用いない方法で仕訳すると、次のようになる。空欄 ・ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(借) 買掛金 ()	(貸) 当座預金 ()
	() <input type="text" value="タ"/> <input type="text" value="チ"/> 0

問 5 資料 1 の 30 日の取引を分記法で仕訳した場合、正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 ツ

ツ の解答群

①	(借)	売掛金	130	(貸)	売上	130
②	(借)	売掛金	130	(貸)	商品	40
					商品売買益	90
③	(借)	売掛金	130	(貸)	商品	90
					商品売買益	40
④	(借)	売掛金	40	(貸)	商品売買益	40

簿記・会計

C 次の(1)~(5)は、三重商事株式会社が行った取引とその仕訳である。空欄 ， ~ に当てはまる勘定科目を，それぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。また，空欄 ・ に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。ただし，金額の単位はすべて万円である。なお，()は各自で考えること。

(1) 会社設立にさいし，株式 300 株を 1 株につき ¥ 3 で発行し，全額の引き受け・払い込みを受け，払込金は当座預金とした。なお，会社法に規定する最高限度額を資本金に計上しないこととした。

(借) () () (貸) 資 本 金 ()
 0

の解答群

- | | |
|-------------|-----------------|
| ① 当 座 預 金 | ① 資 本 準 備 金 |
| ② 利 益 準 備 金 | ③ 繰 越 利 益 剰 余 金 |

(2) 発起人が設立準備のために立て替えていた諸費用 ¥ 50 を，現金で支払った。

(借) 50 (貸) 現 金 50

の解答群

- | | |
|---------|---------|
| ① 立 替 金 | ① 創 立 費 |
| ② 預 り 金 | ③ 開 業 費 |

- (3) 額面¥ 80 の社債を、償還期日前に抽せんによって、償還することを決定した。

(借) () 80 (貸) 80

の解答群

- | | |
|-----------|-----------|
| ① 社 債 | ① 当 座 預 金 |
| ② 未 払 社 債 | ③ 有 価 証 券 |

- (4) 法人税・住民税および事業税の中間申告を行い、前年度の法人税・住民税および事業税の合計額¥ 80 の半額を、現金で納付した。

(借) 40 (貸) 現 金 40

の解答群

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 法 人 税 等 | ① 未 払 法 人 税 等 |
| ② 仮 払 法 人 税 等 | ③ 前 払 金 |

- (5) 売買目的で、和歌山商事株式会社の社債を¥ 291 で買い入れ、代金は月末に支払うこととした。

(借) 291 (貸) () 291

の解答群

- | | |
|-----------|-----------|
| ① 未 払 社 債 | ① 未 払 金 |
| ② 社 債 | ③ 有 価 証 券 |

簿記・会計

第2問 個人企業である山口商店は、普通仕訳帳のほかに現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳を特殊仕訳帳として用いている。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさず、毎月末に行っている。

次の「資料1」～「資料6」にもとづいて、14ページから15ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ～ **ナ** 〕(配点 30)

資料1 山口商店の総勘定元帳・補助元帳の勘定口座の番号(一部)

現金	1	当座預金	2	受取手形	3	売掛金	4
支払手形	11	買掛金	12	売上	21	仕入	31
青森商店 売	1	福島商店 売	2	熊本商店 買	1	宮崎商店 買	2

資料2 平成×5年7月中の取引(一部)

4日：青森商店に商品の販売を委託し、商品を送付した(取引は普通仕訳帳に記帳する)。

6日：熊本商店に対して注文していた商品について、取引銀行から商品代金全額の荷為替を呈示されたのでこれを引き受け、貨物引換証を受け取った。

10日：6日に受け取った貨物引換証を、福島商店に売り渡し、代金は掛けとした。

21日：約束手形を取引銀行で割り引き、割引料を差し引かれた後の手取金は、当座預金とした(取引はすべて当座預金出納帳に記帳する)。なお、保証債務について考慮する必要はない。

24日：出張中の従業員から、当店の当座預金に振り込みがあったが、その内容は不明である。

26日：24日の振り込みは、福島商店に対する売掛金の回収分であることが判明した。

資料3 平成×5年7月の普通仕訳帳

普通仕訳帳

平成 ×5年	摘要	元 丁	借方	貸方
7 4	(ア) (仕入)	9 ()	105	105
6	() (イ)	8 ()	240	240
10	(売掛金) (売上)	4/売2 21	350	350
15	() ()	12/買1 4/売1	50	50
26	(ウ) (売掛金)	18 4/売2	300	300

(注) 小書きは省略している。

資料4 平成×5年7月の現金出納帳

現金出納帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	金額	平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	金額
7 13	売上	青森商店	21	250	7 14	仕入	熊本商店	()	140
29	当座預金	引き出し	()	()	30	買掛金	熊本商店	工	180
31		()	1	()	31		()	1	320
		前月繰越	✓	50			次月繰越	✓	团团キ
				()					()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料5 平成×5年7月の当座預金出納帳

当座預金出納帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口	平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
7 7	売掛金	福島商店	()	210		7 12	仕入	熊本商店	()		()
21	受取手形	青森商店	3		100	20	買掛金	宮崎商店	()	85	
22	売掛金	福島商店	()	100		21	ク		38		5
24	()		18		300	29	()	ク			200
				()	400					85	435
31		()	回		()	31		()	()		()
"		預入合計	2		()	"		引出合計	2		()
		前月繰越	✓		120			次月繰越	✓		()
					()						()

(注) 太字は赤字記入を意味する。また、摘要欄は一部省略している。

簿記・会計

資料6 平成×5年7月の仕入帳

		仕 入 帳			
平成 ×5年	勘定科目	摘 要	元 丁	買掛金	諸 口
7	2	買掛金 宮崎商店	サ	125	
	3	() 宮崎商店	()	10	
	10	シ	8		240
	12	ス 熊本商店	()		230
	14	() 熊本商店	()		セ ソ タ
		買掛金	()	140	
				チ ツ テ	()
	31	()	()		()
	"	総仕入高	31		()
	"	仕入値引高	ト		()
		純仕入高			865

(注) 太字は赤字記入を意味する。また、摘要欄は一部省略している。

問1 空欄 **ア** ~ **ウ** , **ク** , **シ** ・ **ス** に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 **オ** ~ **キ** , **セ** ~ **テ** に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

ア ~ ウ , ク , シ ・ ス の解答群		
① 現金	④ 当座預金	⑦ 受取手形
② 買掛金	⑤ 繰越商品	⑧ 未着商品
③ 積送品	⑥ 仕 入	⑨ 仮払金
④ 仮受金	⑦ 前受金	⑩ 手形売却損
⑤ 支払手形	⑧ 有価証券売却損	

問 2 空欄 **エ** , **ケ** ~ **サ** , **ト** に当てはまるものを, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

エ , ケ ~ サ , ト の解答群							
①	✓	②	1	③	2	④	3
⑤	4	⑥	12	⑦	31	⑧	買1
⑨	買2	⑩	12/買1	㉑	12/買2	㉒	12/31

問 3 **資料 3** の 15 日の取引は, 為替手形に関する取引である。振り出された手形の名あて人を, 次の解答群のうちから一つ選べ。 **ナ**

ナ の解答群					
①	山口商店	②	青森商店	③	福島商店
④	熊本商店	⑤	宮崎商店		

簿記・会計

第3問 個人企業である富山商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、本店のほかに支店を設けており、支店の会計は本店から独立している。ただし、平成×5年12月25日以前に本支店間の未達事項はない。なお、過年度の会計処理はすべて適正に行われている。

次の資料1～資料4にもとづいて、19ページから20ページの問い(問1～4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、()は各自で考えること。[解答記号 **ア**～**ヒ**](配点 30)

資料1 平成×5年12月25日における本店の残高試算表

		<u>残 高 試 算 表</u>			
		平成×5年12月25日			
借 方	元 丁	勘 定 科 目		貸 方	
330	(省 略)	現	金		
420		当 座 預	金		
450		受 取 手	形		
200		売 掛	金		
		貸 倒 引 当	金	3	
170		有 価 証	券		
120		繰 越 商	品		
300		備	品		
		備品減価償却累計額		135	
507		支	店		
		買 掛	金	333	
		借 入	金	200	
		資 本	金	1,950	
20		引 出	金		
	売 上		1,711		
	略	受 取 手 数 料	2		
1,270		仕 入			
310		給 料			
192		支 払 家 賃			
40		旅 費			
5		消 耗 品 費			
4,334)			4,334	

資料2 平成×5年12月26日から31日までの本店のすべての取引

26日：本店の本月分の給料¥30の支払いにあたり、所得税額¥2を差し引き、残額を現金で支払った。

28日：本店の従業員の旅費¥10を、支店が小切手を振り出して立て替え払いしたむねの通知を受けた。

30日：支店に商品¥40(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。

31日：支店の買掛金を支払うため、さきに受け取っていた長野商店振り出しの約束手形¥50を裏書譲渡した。なお、保証債務について考慮する必要はない。

資料3 本店の決算整理事項等

- (1) 現金の実際有高が、帳簿残高と一致しなかった。その原因を調査したところ、手数料の受け取り¥()が記帳されていなかったことが判明した。
- (2) 期末商品棚卸高は、¥210である。
- (3) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、4%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (4) 備品は、すべて平成×2年1月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は6年)で減価償却を行う。
- (5) 有価証券は、売買目的で保有する株式である。決算日の時価は、¥()である。
- (6) 家賃は、毎年10月1日に1年分を前払いしている。なお、本年10月1日以降の家賃は、毎月¥8から¥()に改定されている。
- (7) 消耗品の未使用分は、¥()である。
- (8) 借入金は、すべて平成×5年10月1日に年6%の利息(借入期間1年、利払日は3月末日と9月末日)で借り入れたものである。
- (9) 引出金を整理する。
- (10) 支店は、当期純利益¥25を計上し、本店はその通知を受けた。

簿記・会計

資料4 平成×5年12月31日における本店の損益勘定および繰越試算表

損 益					
12/31 仕	入	1, ㊦㊧㊨	12/31 売	上	1,711
" 給	料	340	" 受 取 手 数 料		8
" 支 払 家 賃		()	" 有 価 証 券 評 価 益		4
" 貸倒引当金繰入(貸倒償却)		㊩㊪	" キ		()
" 減 価 償 却 費		()			
" 旅 費		()			
" 消 耗 品 費		2			
" 支 払 利 息		()			
" ()		45			
		()			()

繰 越 試 算 表

平成×5年12月31日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
㊫㊬㊭	(現 金	
420		当 座 預 金	
()		受 取 手 形	
200		売 掛 金	
	省	貸 倒 引 当 金	()
1 ㊮㊯		有 価 証 券	
210		繰 越 商 品	
㊰		消 耗 品	
㊱㊲		前 払 家 賃	
300		備 品	
		備品減価償却累計額	㊳㊴㊵
612	略	支 店	
		買 掛 金	333
		借 入 金	200
		㊶	()
		未 払 利 息	㊷
	(資 本 金	1, ㊸㊹㊺
()			()

問 1 次の仕訳は、資料 2 の 28 日の取引について、本店と支店の仕訳を示したものである。空欄 ア に当てはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つ選べ。

本店：(借) () 10 (貸) () 10
支店：(借) ア 10 (貸) () 10

ア の解答群

- | | |
|--------|-------|
| ① 当座預金 | ① 立替金 |
| ② 旅費 | ③ 本店 |

問 2 空欄 イ ~ カ , ク ~ ツ , ト ~ ヌ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。また、空欄 キ , テ に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

キ , テ の解答群

- | | | |
|----------|----------|-------|
| ① 従業員預り金 | ① 所得税預り金 | ② 資本金 |
| ③ 従業員立替金 | ④ 支店 | ⑤ 雑益 |

問 3 資料 2 の 31 日の取引は、決算時点で支店に未達であった。このとき、支店における本店勘定の次期繰越高は、¥ ネ ノ ハ である。ただし、未達取引の整理は総勘定元帳には記帳していない。空欄 ネ ~ ハ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記・会計

問 4 支店会計を独立させた場合の説明として**適当でないもの**を、次の解答群のうちから一つ選べ。 ヒ

ヒ の解答群

- ① 支店は、本店から独立した帳簿組織を備え、本店とは別に取引の記帳を行う。
- ② 支店は、資本金勘定を設け、支店独自の純資産を計算する。
- ③ 支店は、支店の財政状態と経営成績を明らかにするため、支店独自で決算を行う必要がある。
- ④ 企業全体の財政状態と経営成績を明らかにするためには、本店と支店の財務諸表を合併する必要がある。